

令和1年度の業績

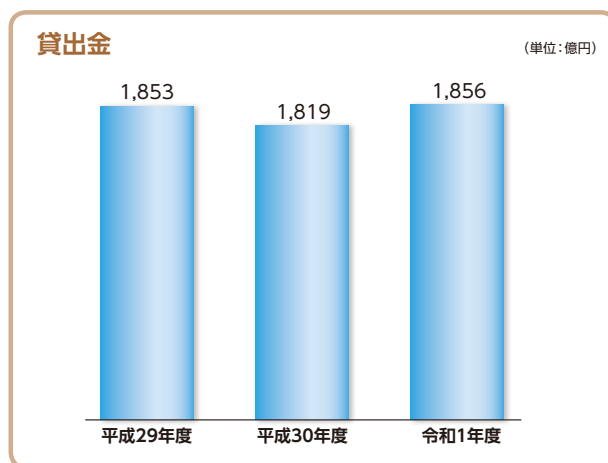
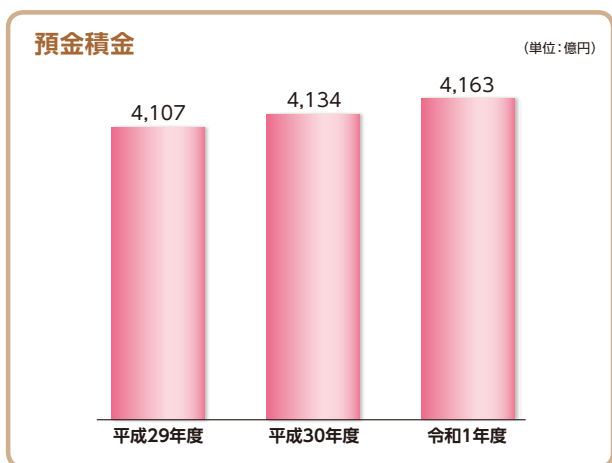
預金・貸出金の状況

預金は、多くのお客さまからのご信頼をいただいた結果、前期比28億円増加し、4,163億円となりました。お客さまに安心・確実な資産運用商品とともに、ライフステージに応じ、ニーズに即した金融サービスを提供してまいります。

貸出金は、事業者の皆さまの資金繰りを支援する

資金や、設備投資のための資金、また個人のお客さまの住宅取得などの資金に積極的に取り組んだ結果、前期比37億円増加し、1,856億円となりました。

これからも適切な金融仲介機能を発揮するとともに、経営改善・生産性向上の支援等、コンサルティング機能を強化し、地域経済の活性化に努めてまいります。



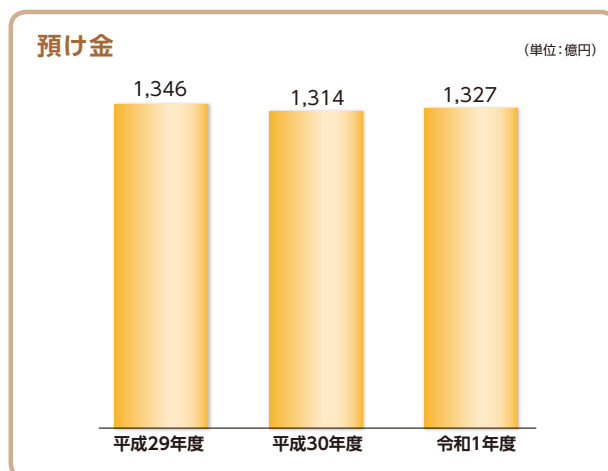
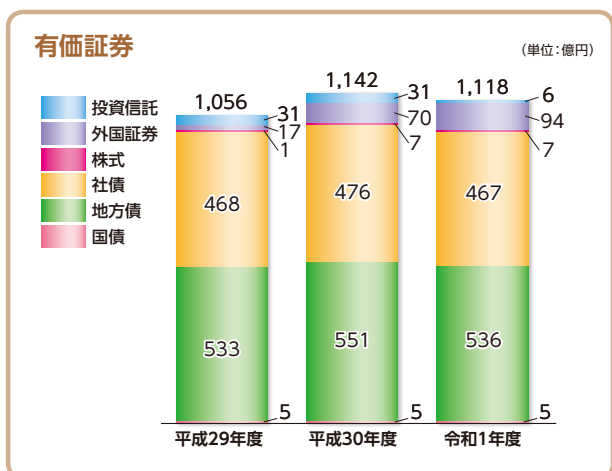
有価証券等の状況

皆さまからお預かりしている預金積金は、主に貸出金として事業活動と暮らしの資金に地元で活用されています。貸出金以外の運用には、有価証券と預け金があります。

有価証券は、地方債、社債を中心に運用しており、期末残高は前期比24億円減少し、1,118億円となりました。安全性・流動性を最優先に格付けの高い国内の債券を中心に運用しています。

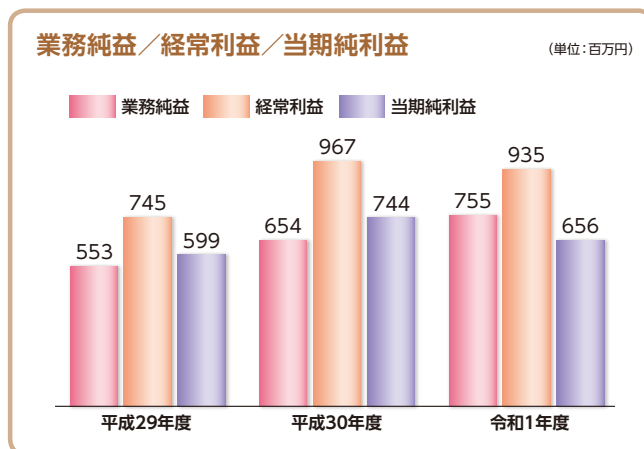
預け金は、全国の信用金庫のセントラルバンクである信金中央金庫への定期預け金を中心に運用しています。期末残高は前期比12億円増加し、1,327億円となりました。信金中央金庫は40兆円の資産を有しAA格* (格付機関はJCR) を取得している金融機関です。

*令和2年6月末現在



収益の状況

貸出金の増加と有価証券運用による収益の増加、経費削減の効果により、金融機関の本業の利益を示す業務純益は増益となりました。経常利益、当期純利益につきましては、不良債権の回収に伴う貸倒引当金戻入益が減少したことにより、減益となりました。

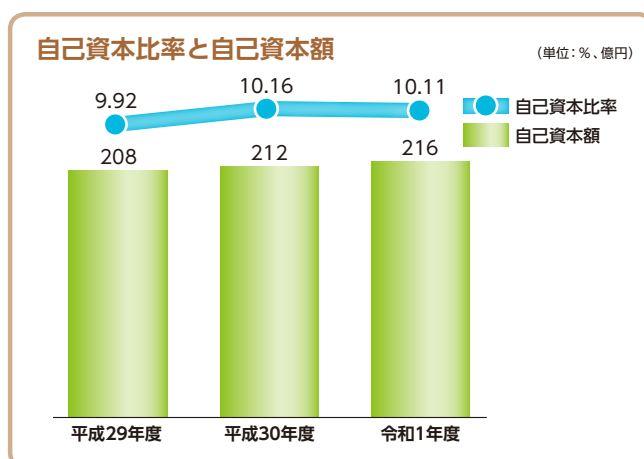


自己資本比率の状況

自己資本比率は、金融機関の健全性・安全性を示す代表的な指標です。

当金庫の令和2年3月末自己資本比率は、10.11%となり、国内で営業する金融機関が求められている基準の4.00%を大幅に上回る水準を確保しています。

なお、公的資金や劣後ローン等による自己資本の増加はありません。



不良債権の状況

令和2年3月末時点での金融再生法上の不良債権は58億35百万円、不良債権比率は3.12%です。当金庫の自己査定基準により厳格に査定し、償却引当基準に沿って貸倒引当金を計上し、万全に処理しています。

不良債権58億35百万円に対しては、回収が確実に見込まれる担保や保証43億5百万円と、不足分に対する貸倒引当金14億45百万円、合計57億51百万円により98.55%が保全されています。

その差額84百万円が未保全ですが、特別積立金171億95百万円により十分にカバーされており、不測の事態に対する備えは万全です。

